

7	11月30日	【実践報告】 八幡小学校 日野原和貴
8	1月11日	【授業案検討】 大和小学校 田辺 博幸 人権：「その人にとってのいちばんとは」(道徳)
9	2月 8日	【授業研究】 大和小学校 田辺 博幸 人権：「その人にとってのいちばんとは」(道徳)
10	2月15日	・研究のまとめ

2 地区教研で論じられた問題と今後の課題について

- 本年度の研究の進め方として次のようなことが確認された。
 - ・様々な授業実践を通じて人権教育を展開していく。また、人権教育を根幹として平和学習や国際連帯の問題にも可能な限り取り組んでいく。
 - ・本年度も部会人数が少ないことで、部会運営が大変な部分もあるが、こうした点を生かしながら情報交換や意見交換を活発に進めていく。また、小中学校の先生方が所属している部会なので、児童生徒や学校の実態を生かした実践を進めていく。
- 授業研究を深めることで、様々な事を学ぶことができた。8月に行われた授業研究では、中学生にどのような内容を取り上げどう指導を進め、人権意識や知識を持たせるのか、授業を通じて様々な事を学ぶよい機会となった。
- 夏休みに行われた夏季学習会(臨地研修)では、春日居郷土館での企画展(わがまちの八月十五日展)を見学する。多くの展示品や遺品にふれる中で、70年以上も前にあった戦争(太平洋戦争・甲府空襲)について改めて多くの事を知ることができた。戦争体験者が年々少なくなり戦争に対する意識や関心が低くなる中で、教育現場でどう学びの場を確保していくかが大きな課題となる。
- 部会の先生方が資料や授業過程を工夫しながら人権教育を進めてきている。こうした授業実践を通じて児童生徒の人権意識や知識を高めることができたと感じるが、さらに自他の人権を守る大切にするなどの実践意欲や態度の向上に繋げるためにも、計画的継続的な取り組みを行っていきたい。

3 報告書作成参加者・共同研究者について

山梨支会 教諭 永関幸玄 平井成二 岩下 城 日野原和貴
 甲州支会 教頭 高添 勉
 教諭 田辺博幸

平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして

山梨市立山梨北中学校 永関 幸玄

事前学習 ・社会科「歴史」で日本国憲法の三原則の一つである基本的人権の尊重を学習する。

・歴史学習の中で、部落差別、中国や朝鮮、アイヌや沖縄に対する差別など差別問題が歴史的にあったことを学ぶ。

1, 主題名 「ちがいのちがい」

2, 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」を考えることを通して、社会や人間関係の中にある「ちがい」を正しく理解し、決めつけや偏見に気付き社会の中で望ましい人間関係の在り方を考えることができる。

(2) ねらいにかかわる生徒の実態

男子19名 女子14名 計33名の学級である。

生徒の多くが人権についてある程度のことは認識しているが、本質的な内容や問題について深く理解はしていない。特定の個人をふざけ半分で中傷することやからかうなどのトラブルも少なからずある。社会科の公民分野における「人権」をテーマにした学習をまだ行っていないが、本活動で、「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」のクイズ形式の活動を取り入れ、決めつけや偏見が人を傷つけることもあることを知り、偏見や差別を見極め、望ましい人間関係を形成する力を育てたいと考える。また、自他の生命と人格を尊重し、その良さや違いを認め合いながら、共に豊かな人間性を培えるような力を育てたい。それぞれ個々の生徒に対して理解を深め、配慮を要する生徒が安心して意見を出せるような雰囲気づくりに努めたい。

3, 授業の流れ

(1) 日時 平成28年8月31日(水) 5校時 14:00～14:50

(2) 場所 3年1組教室

(3) ねらい 「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」の考えることを通して、人間関係の中で「ちがい」について正しく理解し、決めつけや偏見に気付き望ましい人間関係のあり方を考え、個人の人権が尊重され、差別のない社会を考えることができる。

4, 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・本時の目標を確認する。 「あってもよいちがい」「あってはいいないちがい」について考えよう。		

展 開	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの「ちがい」の例を上げ、班ごとに全ての例を話し合いながらあってもよいちがい「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分ける。 班ごとに代表が結果を発表する。 全体でそれぞれの特徴について話し合う。 「あってもよいちがい」 「あってはいけないちがい」 「どちらともいえない」 各班でちがいのちがいカードを作成する。 各班で考えた「ちがい」を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> カードの中から1つ選び、クラス全体で検討し、区別の仕方を理解させる。 班の中で友達の意見をしっかり聞くとともに、自分で感じたこと、考えたことを言えるような雰囲気作りに努める。 どうしても意見が一致しないカード、判断が難しいカードはどちらともいえないカードとする。 発表にしっかり耳を傾けさせ、一人一人が大切にされる場面を設定する。 「あってもよいちがい」は身体的特徴、好み、文化・習慣、個性等であることを押さえる。 「あってはいけないちがい」は人種、性別、貧富、生まれ、身体的特徴等であることを押さえる。 それぞれの特徴について話し合わせ、共通することを整理し、確認する。 明確な答えを求めるのではなく、話し合う過程を大切に、多様な考えを認め、受け入れることに重点を置く。 「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」カードを自作することで、今後、生活していく上で人間関係の中にある「ちがい」を理解させ、決めつけや偏見の不当性に気づくことができる。 「あってはいけないちがい」について、決めつけや偏見について考えさせることで、気づきを共有させたい。 	ちがいのちがいカード ワークシート
終 末	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をふり返り、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して感じたことや思ったことを素直に表現できるように声をかける。 	

5, 本時の評価

本時の活動を通して人権感覚を高めるとともに決めつけや偏見の不当性に気づくことができる。

6, 成果と課題

生徒達は、「差別」がいけないことだということを理解し、確認することができていた。人権意識の入り口（きっかけ作り）には効果的であった。課題として、学校生活や日常生活で生徒達を感じたことのある「ちがい」が出せるところまでいけなかったこと、また「差別」と「区別」の違いや「基準」という言葉の使い方について難しさがあった。教員の経験上の説話ができる場面があれば良かった。

7, 指導助言

親和的な雰囲気のある授業の中で、生徒一人ひとりを大切にする指導過程があった。「人権とは…」「平等とは…」という問いかけに対し、本授業をきっかけとして今後

深化されていくと思われる。今後、グローバル化する社会の観点からも異文化理解の必要性も考え、国際連帯について学ぶ機会をつくっていく必要がある。

8, 継続する事後指導

日常生活や卒業後の進路先で「あってもよいちがひ」「あつたはいけなひちがひ」につ

いて正しく理解させ、人権感覚をたかめられるよう支援したい。グローバル化する社会の

中でさまざまな場面で海外との交流が盛んになり、外国人の方々や様々な立場の人々と接

する機会が増えてくる。人間や文化・習慣に違いはあるものの優劣をつけるのではなく、

異文化や相手の立場に立ち、その歴史や社会背景、人が抱える障がいなどを理解し、尊重

できる寛容な心を持つ必要があることを気づかせていきたい。